

なくそう

介護・障害のワンオペ夜勤 誰もが犠牲にならない働き方を

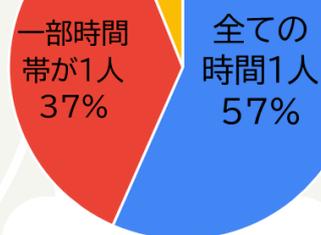


2014年、牛井家の深夜帯の1人夜勤（ワンオペ）が問題になり改善が進んでいますが、いのちを預かる介護・障害職場では未だに1人夜勤が放置されています。

夜勤実態アンケート結果

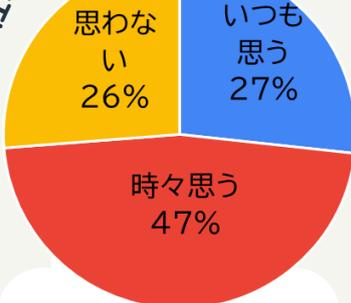
1人夜勤をしているか

常に複数体制
6%

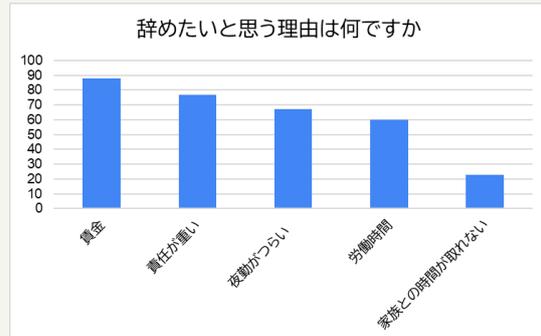


全ての時間と一部時間帯をあわせると、94%が1人夜勤

仕事を辞めたいと思うことがあるか



74%が「仕事を辞めたいと思うことがある」と回答



辞めたいと思う理由の3位が「夜勤が辛い」

1人夜勤中のヒヤリハット事例としては、転倒事故や、「イライラして手をあげそうになった」という回答も。一人夜勤は虐待に繋がりがねません。

1人夜勤では利用者も職員も守れません

1人夜勤中に職員が倒れて亡くなり、朝まで発見されず、入所者の安全が守れない事態が起きてしまいました。一人夜勤では利用者の安全も職員の健康も守れません。

複数配置できるだけの報酬制度を求めます

現在の介護・障害の制度では、夜間に複数職員を配置できるだけの報酬が保障されていません。施設が複数配置できるだけの財政支援が必要です。



障害
福祉保育労東海地本
(fukuho-tokai.jp)
☎052-881-2971

なくせワンオペ！ プロジェクト

介護
愛知県医労連
(aichi-irouren.jp)
☎052-883-6955



介護・障害職場の1人夜勤をなくし、複数体制をあたりまえにしてください

介護・障害職場は、利用者、その家族がその人らしく生活するためにも重要な施設です。しかしながら、現在の制度では十分な職員配置もできず、日々事故なく過ごすことに精一杯です。本来の社会福祉としての介護・障害職場の役割を守りながら働くことに葛藤し、その矛盾から退職につながってしまうケースもあります。

介護の入所施設では夜間帯に1人で10人～40人の対応をしないとイケない状態です。コールが重なり利用者の対応に優先順位をつけざるをえないことや、対応が間に合わず転倒させてしまう危険があります。夜間とは言え、認知症からくる徘徊の対応など、様々な利用者対応があり、夜勤者1人の責任が非常に重くなっています。障害福祉のグループホームについては、夜間配置基準すらありませんが、施設から出ていってしまう、不安になり眠れない、急な体調変化など、何かあれば対応できるように職員が待機しています。国は介護・障害職場の夜間の体制不足を「夜間支援体制加算で対応している」と言いますが、もう1人夜勤者を置くには不十分です。

こういった制度の中で、2020年、1人夜勤中に職員が倒れて亡くなり、利用者の命にも関わるケースが実際におきています。また、愛知県医労連と福祉保育労東海地本で取り組んだ「夜勤実態アンケート」では、1人夜勤中の不安な気持ちから「イライラして利用者に手をあげそうになった」と虐待にもつながりかねない回答もありました。

現在、政府が推進しているICT活用では一人夜勤の実態は解消されません。職員が健康で働き続けられ、職員も利用者も命が守られる配置基準を国・自治体の責任で実現するよう、下記の項目について求めます。

要 請 項 目

1. 介護・障害分野の夜勤時間帯の1人勤務体制をなくし、常時複数配置ができる基準とするよう国に意見をあげてください。
2. 愛知県として、1人夜勤を解消できるよう、財政支援をしてください。

氏 名	住 所

※この署名用紙は目的以外に個人情報を利用することは一切ありません。



 国宛のオンライン署名にもご協力ください。(左QRコードから)

取り扱い団体：なくせワンオペ！プロジェクト
事務局) 456-0006 愛知県名古屋市中熱田区沢下町9-7
労働会館東館405 福祉保育労東海地本 内

《取り組み期間：2022年4月～10月》